

## 日本産タビラコ属の分類

*Trigonotis* of Japan, by J. OHWI

大井次三郎

東亞産紫草科の小属である本属は總計二十數種を含む二年草又は多年草で、小果 (Nutlet) が四面體と成つてその一角で實礎托に着生する點で容易に他の植物と識別される。此類は初め *Eritrichium* に合一されて居たが今日ではそれは僅數の種を含む様に狹義に解釋されて居る。Endogoniaの方が名は古いが記載を共はないので *Trigonotis*の方が正しい。

此類は初め MAXIMOWICZ が *Eritrichium* の名の下に取扱つたが、その後成つて内地及朝鮮の種類については東京植物學雜誌に中井猛之進教授が論じて居られる。その後朝鮮及内地から各一種が追加され、又臺灣には三種、別の種類が知られて居るので總計十一種と成る。

- 1a. 小花梗は萼よりも長く、果時斜上、開出、又は反曲す。
- 2a. 多年草、花冠は徑 6 mm よりも大、花序は小數 (5-15) の花を疎に着生す。  
(§. *Radicantes* OHWI<sup>1)</sup>).
- 3a. 花軸に葉あり、花は腋上性 (*extraaxillary*).
- 4a. 植物全體に壓毛あり、…………… テフセンカメバサウ
- 4b. 莖の下部、葉柄、葉裏に開出毛あり、…………… タイリンカメバサウ
- 3b. 花軸は基部を除く外は無葉。
- 4b. 莖の下部、葉柄、葉裏に開出毛あり、…………… テフセンタビラコ

1) *Dispositio sectionum*.

Sectio 1. *Radicantes* OHWI sect. nov. …… Perennis, pedicellis patentibus quam flores longioribus, floribus majusculis, diam. longioribus quam 6 mm., in racemis laxis foliosis vel efoliatis dispositis. …… typus sect. *T. radicans*.

Sectio 2. *Biennes* OHWI sect. nov. …… Biennis, pedicellis patentibus quam flores vulgo longioribus, floribus minoribus, diam. ca. 2 mm latis, …… typus sect. *T. peduncularis*.

Sectio 3. *Elongatae* OHWI sect. nov. …… Estolonifera, perennis, pedicellis suberectis vulgo quam flores longioribus, floribus mediocribus, nuculis elongatis, angulo interiore quam parte apicali distincte longiore, areis exterioribus utrinque medio lineis unicis paullo elevatis notatis. …… typus sect. *T. nankotaiizanensis*.

Sectio 4. *Micranthae* OHWI sect. nov. …… Perennis, pedicellis suberectis brevioribus quam flores, floribus diam. quam 6 mm angustioribus. …… typus sect. *T. brevipes*.

- 4b. 植物全體に壓毛あり.
- 5a. 花莖は匍匐枝を生ぜず稍直立. 花序は莖上 2 個稀に 1 又は 3 個.  
..... タチカメバサウ
- 5b. 花莖は倒伏し. 上部の葉腋より長き匍匐枝を生ず. 花序は莖上只一個  
..... ツルカメバサウ
- 2b. 二年草. 花は徑約 2 mm (§. Biennes OHWI).
- 1b. 小花梗は花後も直立又は稍直立.
- 2a. 萼は花後 6 mm まで伸長す. 小花梗は稍長く. 小果は腹部稍伸長し上面よりも明かに長し. 上面並に外側下面に一縦隆線あり. (§. *Elongatae* OHWI).  
..... ツギタカシロルリ
- 2b. 萼は長さ 3 mm を超えず. 小花梗は通常萼より短し. 花は徑 2-5 mm (§. *Micranthae* OHWI).
- 3a. 小果は附屬物なし.
- 4a. 匍匐枝の葉は圓形乃至廣楕圓形. 花は徑 4-5 mm. .... ウチダシタピラコ
- 4b. 匍匐枝を生ぜず又は匍匐枝の葉は狭く. 長楕圓形. 花は徑 2.5-3 mm.
- 5a. 莖の下部及葉柄には通常開出毛あり. .... アリサントピラコ
- 5b. 全體に疎に壓毛あり. .... ミヅタピラコ
- 3b. 小果は上面に海綿質の冠狀附屬物あり. .... コンジタピラコ

### 1) テフセンカメバサウ

*Trigonotis radicans* MAXIM. in Mém. Biol. 11 (1881) 273; GÜRKE in ENGLER, Pflanzenfam. IV: 3a (1897) 121; NAKAI l. c. (1917) 217. = *Eritrichium radicans* A. DC. Prodr. 10 (1841) 128; MAXIM. l. c. 8 (1872) 550.

稍叢生する多年草. 全體に短壓毛あり. 莖は初め直立高さ 5-6 寸後伸長して地に倒伏す. 葉は卵形. 長さ 1.5-4 cm. 基部は圓形乃至心臟形. 先端は銳形. 根葉は長柄. 上葉は短柄. 花は莖に單生. 腋上性. 小花梗は長さ 1-2 cm 花時斜上後稍下垂. 萼裂片は長さ 2.5-7 mm. 披針形. 銳頭. 花冠は徑 7-10 mm. 殆ど白色. 筒部は長さ 2 mm. 内面基部は短毛あり. 裂片は圓形. 徑長共に 4-5 mm. 雄蕊は花筒の中央より少く上部に着き. 葯は長楕圓形. 長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 鈍頭. 小果は短毛あり褐色. 稍有柄. 上面の長さ 2 mm.

アムール及びウスリ. 滿洲の東部から濟州島を含む朝鮮全土に廣く分布して居るが舊日本では北九州の肥後國. 阿蘇郡. 古城村. に知られて居るだけであるらしい.

May, 1937.

117

## 2) タイリンカメバサウ

*Trigonotis sericea* OHWI in Journ. Japan. Bot. 12 (1936) 328.

□ 稍叢生する多年草。葉裏及莖の下部。葉柄等に開出毛ある外は壓毛あり。莖は後に伸長し。上部に花を付く。葉は卵形乃至廣卵形又は長卵形。長さ 2.5-5 cm. 先端圓頭にして微凸頭又は稍銳頭。基部圓形乃至心臟形。根葉は長柄。上葉は短柄。花は莖の上部に單生。腋上生。小花梗は纖細。長さ 1-2 cm. 萼裂片は長さ 2-5 mm. 狹長橢圓形。花冠は徑 8-10 mm. 花筒は長さ 2 mm. 裂片は殆ど圓形。長さ 4 mm. 雄蕊は花筒の中部に坐し。葯は長さ  $\frac{3}{4}$  mm. 長橢圓形。鈍頭。熟果は未知。

果實は知られぬが前種に酷似して居て毛茸の状態が相異なる。朝鮮に稀れに産し。又北九州の肥後國阿蘇郡。波野村にも生ずる。

## 3) テフセンタピラコ

*Trigonotis coreana* NAKAI in Bot. Mag. Tokyo 31 (1917) 218.

稍横臥する根莖を有し僅かに叢生する多年草。莖の下部。葉柄。及葉裏に開出毛ある外は壓毛を生ず。葉は卵形又は長橢圓形。銳頭又は微凸頭長さ 2-4 cm. 基部は圓形又は稍戟形下葉は長柄。上葉は短柄。莖は後倒伏。腋より長き匍匐枝を生ず。總狀花序は頂生なるも。側枝伸長して通常側生狀と成る。單立又は稀に双生。疎に 5-10 花を付け長さ 3-10 cm 無葉。小花梗は長さ 7-12 mm. 纖細。花時斜上。後開出又は反曲。萼裂片は長さ 2.5-4 mm 廣披針形稍鈍頭。花冠は徑 6-8 mm. 花筒は長さ殆ど 2 mm. 裂片は廣倒卵形。長さ 3-4 mm. 雄蕊は花筒の上部に坐し。葯は長橢圓形。長さ  $\frac{2}{3}$  mm. 鈍頭。熟果は未知なれど若きものは全體に短毛あり。

朝鮮の咸鏡(南北)道の産でウスリにも知られて居る。莖葉の状態は前種に似て居るが花序が全く相違する。中井教授(l. c.)によれば濟州島にも分布すると。

## 4) タチカメバサウ

*Trigonotis Guilielmii* A. GRAY ap. GÜRKE in ENGLER, Pflanzenfam. IV: 3a (1897) 121; MATSUM. Index Plant. Japon. 2: 2 (1912) 528; NAKAI l. c. 31 (1917) 217. = *Eritrichium Guilielmii* A. GRAY in Mem. Amer. Acad. Arts a. Sci. n. s. 6 (1859) 403; MAXIM. l. c. 8 (1872) 551.

横臥せる根莖ある多年草。全體疎に壓毛あり。莖は單一直立。匍匐枝を有せず。高さ 20-40 cm. 葉は卵形又は廣卵形。長さ 3-7 cm 銳頭又は微凸頭根葉は甚長柄基脚稍心臟形。上葉は短柄。基脚戟形乃至廣楔形。花序は總狀。双生。又は稀は 1 個又は 3-4 個。莖の上部に着き疎に 8-15 花を付け。無葉。小花梗は纖細初め斜上後に開張長さ 1-1.5 cm. 萼裂片は廣披針形。乃至狹卵形。銳頭。長さ 2-5 mm. 花冠は白色又は淡碧色。徑 7-10 mm. 花筒は長さ 1.5 mm. 平滑。裂序は廣橢圓形。長さ 3-4 mm. 雄蕊は

花筒中央よりも少く上方に着生。葯は長楕圓形鈍頭長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 小果は暗褐色。短毛あり。上面の長さ殆ど 2 mm. 基部は稍有柄。

北海道の南東部から東北地方、關東地方、中部地方の山地森林内の水邊等に餘り多いと云ふ程ではないが可なり見る植物であるが、中國地方（因幡、出雲）の山地にも又稀に見られる。飯沼慾齋の草木圖説に詳しい圖解があるから参照せられたい。

### 5) ツルカメバサウ

*Trigonotis Icumae* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 20 (1906) 92; MATSUM. I. C. (1912) 528; NAKAI I. C. (1917) 218.

多年草。全體に細き壓毛あり。莖は後に倒伏。葉腋より長く伸長する匍匐枝を生ず。葉は卵形。長さ 3-5 cm 鈍頭基脚戟形又は稍心臟形。下葉は甚長柄。上葉は短柄あり。總狀花序は頂生なるも、側枝の伸長によりて側生の狀を呈す。單生。長柄。疎に 7-10 花を着け。無葉。長さ 3-10 cm. 小花梗は纖細。長さ 10-15 mm. 斜上後に開張。萼裂片は 2.5-3.5 mm. 後に稍大形となる。長楕圓形。乃至廣披針形。鈍頭。花冠は徑 10-12 mm. 筒部は長さ約 2 mm. 裂片は倒卵圓形。長さ 4-5 mm. 雄蕊は花筒の中部よりも明かに上方に坐し。長楕圓形。長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 鈍頭熟果は未知。

牧野博士によれば小果は長さ 3 mm. 短柄。疎に短毛があると。博士は產地として陸奥を擧げて居られるが、中井博士によれば越後國。並に朝鮮の安東にも産すると云はれる。私は陸前國。黒川郡。宮床村産（飯柴永吉）の標本のみを見て居る。本種は飯沼慾齋のツルカメバサウの圖がタイプであるがそれには残念乍ら產地が記して無い。

### 6) タヒラコ (キウリグサ)

*Trigonotis peduncularis* BENTH. ex BAKER et MOORE in Journ. Linn. Soc. 17 (1879) 384; HEMSL. *ibid.* 26 (1890) 152; MATSUM. *Ind. Plant. Japon.* 2: 2 (1912) 528; NAKAI I. C. (1917) 216. = *Myosotis peduncularis* TREVIR. in *Schrift. Natur. Gesellsch. Berl.* 7 (1813) 147. = *Eritrichium pedunculare* A. DC. I. C. (1841) 128; MAXIM. I. C. 8 (1872) 548. = *Eritrichium japonicum* MIQ. in *Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat.* 2 (1865) 96.

二年草。全體に壓毛を生ず。莖は下部分枝し。叢生す。高さ 10-30 cm. 直立。葉は長楕圓形。乃至卵形。長さ 1-3 cm. 鈍頭。にして微凸頭。基部は多少楔形。下葉は有柄。上葉は無柄。葉柄及葉身には斜上せる縁毛あり。花序は總狀。稍疎に多數の花を着け。長さ 5-25 cm. 一莖上に 1-4 個を着け無葉なるも下方のみに往々有葉。小花梗は初め斜上。後開出。長さ 3-9 mm. 先端成熟時に棍棒狀に膨大。萼裂片は卵形。長さ 1-2 mm. 鈍頭。花は淡碧色徑約 2 mm. 筒部は長さ 1 mm. 裂片は略圓形長さ 1 mm. 雄蕊は花筒の中央部に着し。葯は長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 稍鈍頭。卵形。小果は短柄あり。無毛又は短毛あり。上面の長さ 2 mm.

May, 1937.

119

北海道の南部から九州まで、及び朝鮮全土の田畑等に最も普通に生育して居るが海外では満洲、支那、シベリア東部及びコウカサスにまで知られて居る。タピラコは菊科のオニタピラコの事。本種では無いとも云はれるが、此所では習慣に従つてタピラコの名を本種にあて、おく。圖は飯沼慾齋の草木圖説にのつて居る。小果は短毛のあるものから全く無毛のものまで色々ある。

### 7) ツギタカシロルリ

*Trigonotis nankotaizanensis* MASAM. et OHWI in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. 23 (1933) 210. = *Omphalodes formosana* MASAM. in Journ. Tropic. Agric. Taihok. 2 (1930) 240. = *Myosotis nankotaizanensis* SASAKI in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. 9 (1931) 155.

斜上する根莖を有して叢生する多年草。全體に壓毛を生ず。莖は高さ 10-15 cm. 直立。葉は倒披針形乃至長橢圓形。長さ 7-15 mm 鈍頭又は稍鈍頭。基脚は鋭形。根葉は有柄。上葉は無柄。總狀花序は莖頂に 1-2 個。無葉なるも下部に 1-2 葉ある事あり。稍疎に 7-15 個の花を生ず。長さ 3-7 cm. 小花梗は直立又は稍直立長さ 3-7 mm. 萼裂片は長さ 2-4 mm 披針形鈍頭。花冠は白色。徑 5-6 mm. 筒部は長さ 2 mm. 裂片は倒卵圓形。長さ 2 mm. 雄蕊は花筒の上方  $\frac{2}{3}$  に坐し。葯は狹長橢圓形。長さ  $\frac{2}{3}$  mm. 鈍頭。小果は平滑。褐色。腹面の長さ 1.5 mm. 上面の長さ 2 mm. 上面及外下面の中央に一本の縦線あり。

臺灣の高山の南湖大山、及び次高山の産。

### 8) ウチダシタピラコ

*Trigonotis elevato-venosa* HAYATA Icon. Plant. Formos. 6 (1916) 32 et 8 (1919) 80, t. 3.

根際より平臥する匍匐枝を生ずる多年草。莖の下部及葉柄に開出毛ある外は全體に壓毛あり。莖は短く。高さ 10-20 cm. 1-3 葉を付け。直立。單一。根葉は長橢圓乃至廣橢圓形。長さ 1.5-3 cm 稍長柄あり圓頭又は微凹頭にして中肋少く突出。葉脈は上面後に稍隆起す。基脚鈍形。匍匐枝の葉は圓形乃至廣橢圓形。長さ 1-2 cm 兩端圓形又は戟形。先端往々凹頭にして中肋少く突出す長さ 5-10 mm の柄を有す。花序は穗狀。單一。又は二分。無葉。長さ 5-10 cm 稍密に多數の花を着生す。小花梗は直立又は稍直立長さ 1-3 mm. 萼裂片は狹卵形。稍鈍頭。長さ  $\frac{2}{3}$ -2 mm 花冠は徑 4-5 mm 筒部は長さ少く 1 mm を超え。裂片は卵圓形。長さ 1.5-2 mm 雄蕊は花筒の上部約  $\frac{2}{3}$  に坐し。葯は長橢圓形。長さ少く  $\frac{2}{3}$  mm を超え。鈍頭。小果は平滑黒褐色。上面に於て長さ 1 mm 弱。

臺灣北部の山地の産で稍稀な種類に屬する。匍匐枝とその上にある葉の形が著しい

## 9) アリサンタピラコ

*Trigonotis formosana* HAYATA Flor. Mont. Formos. (1908) 171.

莖の下部及葉柄に通常開出又は斜上毛ある外は全面に稍著しく壓毛あり。莖は高さ 10-20 cm. 1-3 葉あり。單一。後根際より稍長き匍匐枝を生ず。時に匍匐枝にも花序を生ず。根葉は長橢圓形。乃至披針形。長さ 2-5 cm. 鋭脚。圓頭にして中肋少く突出す。葉柄は稍長し。莖葉及匍匐枝上の葉は此れに似て小形。時に稍巾廣く。短柄あり。穗狀花序は莖上に 2-3 個時に 1 個又は 4-5 個無葉。長さ 5-15 cm. 密に多數の花を着け小花梗は稍直立。長さ 1-3 mm. 萼裂片は卵形三角形。稍鋭頭長さ 0.5-1.5 mm. 花冠は徑 2-3 mm 筒部は長さ少く 1 mm を超え。裂片は廣橢圓形。長さ 1-1.5 mm 雄蕊は花筒の中央部に坐し。葯は長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 小果は黑色。平滑なるも時に上面内隅に近く 1-3 本の毛茸あり。上面の長さ約 1 mm.

臺灣の山地に最も普通の種類でミツタピラコに酷似して居て毛茸が稍深く。莖の下部及び葉柄のそれは稍開き加減である。

## 10) ミツタピラコ

*Trigonotis brevipes* MAXIM. in Mém. Biol. 11 (1881) 293, nom. sol.; HEMSL. in Journ. Linn. Soc. 26 (1890) 152; MATSUM. Ind. Plant. Japon. 2: 2 (1912) 528; NAKAI l. c. (1917) 215. = *Eritrichium brevipes* MAXIM. l. c. 8 (1872) 547.

根莖は短。短くして斜上する匍匐枝を生ず。全体に短き壓毛を疎生す。莖は高さ 10-30 cm 斜上する基脚より直立し。數葉を着く。單一又は稍分枝す。葉は長橢圓形又は卵形。長さ 1.5-3 cm 兩端圓形又は鈍形。中肋は先端少く突出す。根葉は有柄。上葉は短柄。穗狀花序は一莖に 1-5 個。無葉。長さ 5-10 cm. 密に多數の花を着く。小花梗は長さ 1-2 mm 又は稍無柄。稍直立。萼裂片は卵形。稍鋭頭。長さ 0.5-1 mm. 花冠は徑 2.5-3 mm 花筒は長さ 1 mm 弱。裂片は廣橢圓形。長さ 1-1.5 mm. 雄蕊は花筒の中央部に坐し。葯は長橢圓形。鈍頭。長さ  $\frac{1}{2}$  mm. 小果は黑色。平滑。上面に於て長さ 1 mm.

本州全土。四國及九州の産で山際等の溪流の畔に最も普通の植物である。文獻によれば又支那にも産すると云ふ。

## 11) コシジタピラコ

*Trigonotis coronata* OHWI in Bot. Mag. Tokyo 44 (1930) 571.

短き根莖を有する多年草。全面に疎に壓毛を有す。莖は高さ 15-40 cm 直立。後に短き匍匐枝を生ず。葉は廣卵形乃至狹長橢圓形。長さ 2-6 cm 鋭頭乃至鈍頭にして微凸頭。基脚鋭形乃至戟形。根葉は稍長き。上葉は短き柄あり。穗狀花序は莖上 2-5 個。

May, 1937.

121

長さ 5-10 cm 密に多数の花を着く。小花梗は稍直立。長さ 1-2 mm 又は稍無柄。萼裂片は卵状三角形。長さ 0.5-1.5 mm。稍鋭頭。花冠は径 2.5-3 mm。筒部は長さ 1 mm 裂片は廣楕圓形。長さ約 1.5 mm 雄蕊は花筒の中央部に坐し。葯は長楕圓形。長さ約  $\frac{1}{2}$  mm 鈍頭。小果は黒褐色。平滑。上面に於て長さ 1 mm 上面に高さ  $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{2}$  mm の海綿質の冠狀附屬物あり。

北陸地方(越後・信濃・越中)及び山城國の特産でミヅタビラコその儘の習性であるが小果に冠狀の附屬物のあるのが著しい區別點である。

本文の印刷中に Journal of the Arnold Arboretum, vol. 18, Jan. 1937 に Ivan M. JOHNSTON (p. 25) が *Omphalodes serica* MAXIM. in Mém. Biol. 8 (1872) 558 は *Omphalodes* ではなくて、ツルカメバサウ、テウセンカメバサウ及び *Trigonotis myosotidea* MAXIM. に近い種類と考へて *Trigonotis sericea* (MAXIM.) JOHNSTON. と改めたが、此れは原記載を読むと本文のタイリンカメバサウに相當するものの様である。

又同書 (pp. 1-10) には同氏の西南支那のタビラコ屬の總覽が出版されて居る。それによると本屬は西南支那の山地に最も種類が多く分布の中心をなし總計 16 種に達すると云ふ。その内タビラコ及びミヅタビラコを除けば全部南支那の特産で北支那には少しも關係がないと。同地には小果が四面体をせずワスレナグサの様に二面体のものが存在するらしい。